

シラヒゲウニ放流技術開発調査 (種苗生産・供給)

川口吉徳・松元則男・神野公広・今村昭則

【目的】

シラヒゲウニ放流効果実証化の取り組みに供する放流種苗を生産・供給する。

【結果】

1) 種苗生産実績

表1のとおり、平成20年11月、平成21年1月採卵群から、殻径3.21～66.02mmの稚ウニを171,000個生産し、平成21年4月24日～6月12日に奄美海域の各地先及び、三島村地先に放流した。171,000個(平均15.84mm)の生産実績であった。

表1 種苗生産実績

目的・用途	出荷箇所	殻径 (mm)	出荷個数(個)	出荷時期
離島再生交付金事業	9カ所	25.94	59,000	4/24～6/11
小計			59,000	
農林・支庁試験放流	3カ所	10.32	111,500	6/2～6/11
漁場環境部試験	1カ所	60.63	500	6/12
小計			112,000	
合計		15.84	171,000	
	最大	66.02		
	最小	3.21		

2) 種苗生産

11月採卵(平成21年11月9日～12月10日採苗)

- ・幼生は124万個収容した。
- ・H18, 19年の生産において浮遊期において、市販のキートセラスグラシリスのみ給餌した区と、フェオダクチラウムを1:1で給餌した区で大きな差異は見られなかったことより、全てキートのみで飼育開始した。
- ・自然減少、奇形等が無く、成長が良かったため、日令23, 25で間引きした。
- ・幼生は日令31で計数し、47.3万個を波板に採苗した。
- ・採苗した47.3万個を3.3t水槽3基, 4t水槽2基で波板飼育を開始した。